彫刻3年

学校番号	3010

令和5年度　　美術　　科

教科	美術	科目	彫刻	単位数	5 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	なし						

1担当者からのメッセージ(学習方法等)

2年生に絵画(日本画)・絵画(洋画)・彫刻・ビジュアルデザインの4コースより選択し、3年生も同じコースを継続。2年5単位、3年5単位の計10単位
・一斉授業
・個人制作
・完成までの取り組み・技法の理解を重視

履修条件
なし

2学習の到達目標

彫刻の基礎的技術を実習によって体験させ、立体造形に関する基本的な考え方や各分野に対する理解を深める。また、美術の意義や役割を理解させるとともに、想像力、造形力、表現力を養う。長く芸術活動を続けるにあたり常に考え探究し自己と向き合う基本的姿勢を養う。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	彫刻・立体に幅広く興味関心を持ち、課題に対して自己テーマ(自己課題)を設定しそれに向けて積極的な姿勢をみせている。	与えられた課題の内容を理解し、自ら考え創意工夫している。自身が出したアイデアの取捨選択の判断をしている。さまざまな表現方法に意欲的に挑んでいる。	彫刻に関する技能を身に付け、それらのことを展開させ、柔軟に応用している。	彫刻に関する知識を身に付け、それらのことを展開させ、柔軟に応用している。
評価方法	学習状況の観察 課題提出状況 作品制作状況 発表活動の状況	学習状況の観察 課題提出状況 作品制作状況 発表活動の状況	学習状況の観察 課題提出状況 作品制作状況 発表活動の状況	学習状況の観察 課題提出状況 作品制作状況 発表活動の状況

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1	人体塑像を学ぶ	(1)人体 ア　人物クロッキー イ　人物スケッチ ウ　塑像芯棒制作 エ　塑像	 〇 〇 〇 〇	 〇 〇 〇 〇	 〇 〇 〇 〇	 〇 〇 〇 〇	a:彫刻・立体に幅広く興味関心を持ち、課題に対して自己テーマ(自己課題)を設定し積極的な姿勢をみせ、工夫できているか。 b:与えられた課題の内容を理解し、立体作品を存在させるための構造を理解しているか。 c:彫刻に必要な捉え方や表現方法を身に付け、それらのことを展開させ、柔軟に応用しているか。 d:彫刻鑑賞による考察から彫刻的観点び柔軟に応用しているか。	作品制作状況 授業での観察 課題提出状況 進度状況 出席状況
2	研究課題の制作	(2)研究課題 Ⅰ　人体 オ　人体の石膏どり カ　修正 Ⅱ　抽象立体 キ　構想 ク　制作	 〇 〇 〇 〇 〇 〇	 〇 〇 〇 〇 〇 〇	 〇 〇 〇 〇 〇 〇	 〇 〇 〇 〇 〇 〇	a:彫刻・立体に幅広く興味関心を持ち、課題に対して自己テーマ(自己課題)を設定し積極的な姿勢をみせ、工夫できているか。 b:与えられた課題の内容を理解し、立体作品を存在させるための構造を理解しているか。 c:彫刻に必要な捉え方や表現方法を身に付け、それらのことを展開させ、柔軟に応用しているか。 d:彫刻鑑賞による考察から彫刻的観点び柔軟に応用しているか。	作品制作状況 授業での観察 課題提出状況 進度状況 出席状況
3	発表に向けて	Ⅰ　人体 ケ　着色・発表準備 Ⅱ　抽象立体 コ　発表準備	 〇 〇 〇	 〇 〇 〇	 〇 〇 〇	 〇 〇 〇	a:彫刻・立体に幅広く興味関心を持ち、課題に対して自己テーマ(自己課題)を設定し積極的な姿勢をみせ、工夫できているか。 b:与えられた課題の内容を理解し、立体作品を存在させるための構造を理解しているか。 c:彫刻に必要な捉え方や表現方法を身に付け、それらのことを展開させ、柔軟に応用しているか。 d:彫刻鑑賞による考察から彫刻的観点び柔軟に応用しているか。	作品制作状況 授業での観察 課題提出状況 進度状況 出席状況

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画(例)作成上の留意点
・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について〇を付けている。